

「経鼻内視鏡の普及啓発活動」のご紹介



鼻から入れる内視鏡
 “鼻から”検査をした人の**93%**が、「次回も鼻から」を希望しています。

経口 83 (4%)
 経鼻 1748 (93%)
 併用 13 (1%)
 無回答 32 (2%)

- ①「オエッ」となる咽頭反射が殆どない。
- ②医師との会話が可能。
- ③薬剤による副作用・麻酔事故等のリスクが少ない。
- ④車の運転等、直ぐに日常生活に戻る。
- ⑤映像をリアルタイムに見ることが出来る。



「経鼻内視鏡」の普及施策の概要



<経鼻内視鏡検査のニーズは不明>

- 1: 発売後、3年間(H12~H15)で200施設(経口・経鼻・併用)。経鼻挿入は約60施設。
- 2: 開業医中心で大手施設(基幹病院)で不人気。関連学会も推奨しない。
- 3: 医療従事者の間で細径は性能(画質)が劣るとの先入観が強い。

<仮説>

- ①検査方法は受診者が選ぶ時代。
- ②圧倒的な受容性の高さはリピート率の向上を促す。
- ③発見率の高さは延命・救命に寄与する。
- ④目標:3年後、1000施設。受診者数:(80万人/年)
- ⑤胃がん早期率:0, 3%以上
発見胃がんにおける早期胃がんの比率:80%以上

